

教育目標 校是 「自立と貢献」	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況，次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導では，いわゆるアクティブラーニングを取り入れ，そのことが深い学びにつながっているかどうかを意識して授業研究を行った。今後，さらに効果的なグループ学習の振り返りや有効な発表などの活動を共有し，再構成していきたい。各種の調査やテストでも成果が出ているので，次年度はさらに“深い学び”を研究・実践していく。 ・課題のある生徒も多い中，通級や日本語指導など様々な指導を進めているが，一人の生徒にとってさらに適切なものにするため，情報の共有をし，その上で効果的な実践を定着させたい。 ・昨年度の「しなやかな道徳」の実践をもとに，教科書及び独自教材の教材研究の中で，ねらいの設定や発問内容の研究を行い，成果をあげた。次年度はその資料を活用して成果を確実なものにしていく。 ・学校保健委員会での検討で，生徒の健康を多角的に分析できた。次年度はそのことをいかして，保健委員会などの活性化につなげていく。 ・生徒会活動として，地域とともにボランティアとして「服のチカラ・プロジェクト」を実践した。今後も生徒の自主的な力の育成や学校に貢献する生徒を増やしていきたい。小学生と中学生が連携する場面が増えてきた。 またそのことにより，「つながり」が多くの場面で見られるようになった。今後も継続していきたい。 ・働き方改革は，一歩進んだ。次年度は更なる進化が必要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの利用に対する指導の重要性が高まってきている。 ・全体として落ち着いていると感じている。 ・地域では，交通ルールが守れていない場面を見かける。安全教育の必要性がある。 ・中学生徒としては，少し大人しく感じる。 ・「服のチカラ・プロジェクト」はよかった。ぜひ来年も継続して欲しい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年10月30日(水)	学校運営委員会 理事
最終評価	令和2年2月19日(水)	学校運営委員会 理事

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

『自ら課題を探究・解決し、他者に貢献できる学力の育成』 ～つながりを大切にした学力の向上～

具体的な取組

①カリキュラム・マネジメントの視点の下、教科横断的な授業実践

- ・昨年度作成した「他教科の重複内容 カリキュラム・マネジメントにむけて」や今年度作成する関連単元配列表を意識的に活用し、各教科の授業で学んだ知識がつながるような授業を計画、実践する。

②自ら学んだことが仲間との対話の中で、深い学びにつながることを実感できる授業実践

- ・ペア学習やグループ学習、その他さまざまな対話的な学びの授業実践について検討や改善をする。
- ・自分の考えを安心して発表できたり、仲間の意見をきちんと受け止めたりするなどの雰囲気などの授業でも行えるように、研修会等で他教科との実践交流を行う。

③学んだことが他者や社会につながり、貢献していることを実感できる授業実践

- ・社会における自分の役割を考え、学びが他者や社会の貢献につながっていくことを実感できる場をつくる（総合的な学習の時間）。
- ・週末課題を含めた「家庭での自学自習の習慣化」につながる学習課題作成に取り組む。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムの分析結果。
- ・家庭学習での成果物の点検結果。
- ・授業内での生徒の話す、聞く態度の変容。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。

該当項目・・・①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身につけてきた」(生徒)

②「授業を通して自分の意見を発表したり、文章に書くなど表現する力が身につけてきた。」(生徒)

③「意欲的に学習する姿勢が身につけてきた。」(生徒)

④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」(保護者)

中間評価

各種指標結果

生徒及び保護者アンケートの結果

①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身につけてきた」(生徒)の適合度は、5.3ポイントでH30年度後期より0.1ポイント高い。

②「授業を通して自分の意見を発表したり、文章に書くなど表現する力が身につけてきた。」(生徒)の適合度は、5.6ポイントでH30年度後期より0.1ポイント高い。

③「意欲的に学習する姿勢が身につけてきた。」(生徒)の適合度は、5.4ポイントでH30年度後期

と同じであった。

- ④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」(保護者)の適合度は、4.2ポイントでH30年度後期より0.3ポイント低い。

生徒アンケートや授業の中での生徒の様子から、授業改善を中心にした改善の成果が見られる。一方、保護者アンケートの結果からは、学習面に対する生徒の様子に対して厳しい結果となった。

自己評価

分析(成果と課題)

- ペア学習、グループ学習等の授業を意識的に取り入れ、対話的な学びを意図的に取り入れた授業改善が成果につながってきていると思われる。
- 校内も落ち着いて学習ができる環境となってきたため、生徒の学習に対して、保護者の関心が高まりつつあると思われ、その結果として、「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる」というアンケートの結果が昨年に比べ下がったと思われる。

分析を踏まえた取組の改善

自ら課題を探究・解決し、他者に貢献できる学力の育成を実現するために、

- ①授業内での課題設定と、対話的な学びを通じた深い学びの実現に向けて、学習の振り返りの記述内容の検討を行う。
- ②基礎基本の家庭学習だけでなく、週末課題を中心として学習がつなるような、また深い学びにつながるような家庭学習課題を実施していく。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- ・学習確認プログラムの分析結果。
- ・家庭学習での成果物の点検結果。
- ・授業内での生徒の話す、聞く態度の変容。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・学校行事に参列したが、意欲的で落ち着いていると思う。
- ・きめ細かな取組がたくさんあり、すごいと思う。
- ・不登校の生徒に対しても、その生徒に合わせた学習指導をして欲しいと思う。
- ・スマホの時間などで、タイムマネジメントのできていない中学生が多いのではないかな。そのことにより眠そうであったり、元気がなかったりとなっているのではないかな、と思う。
- ・子どもたちがもっと本に向き合う時間を大切にするようになって欲しい願う。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

生徒及び保護者アンケートの結果

- ①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身についてきた」(生徒)の適合度は、5.5ポイントで前期より0.1ポイント低い。
- ②「授業を通して自分の意見を発表したり、文章に書くなど表現する力が身についてきた。」(生

徒)の適合度は、5.3ポイントで前期とポイントが同じである。

③「意欲的に学習する姿勢が身についてきた。」(生徒)の適合度は、5.3ポイントで前期より0.1ポイント低い。

④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」(保護者)の適合度は、4.5ポイントで前期より0.3ポイント高い。

授業内や家庭学習の中で思考力や表現力の向上を狙いとした課題を多く出すことによって、じっくり考えたりする場面も増えている。しかし、繰り返し行うことで単にこなしているという意識を持ったり、達成感を感じることが出来なかったりと感じる生徒もいるように思われる。

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

・授業ではグループ学習や単元の振り返り、単元テスト、小テスト等の小さなかたまりでの学習チェックを行い改善できている。しかし、グループ学習に参加できなかつたり、課題に前向きに取り組めなかつたりする場面もあり、各取組をさらに見直し改善する必要があると思われる。

分析を踏まえた取組の改善

・どのような場面でより効果的にグループ学習や振り返り、発表などの活動が有効なのか、教科をこえて取組全体を共有し、再構成する必要がある。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・以前とはちがって、多くの工夫した取組があり、とても素晴らしいと思います。
・スマートフォンの利用のコントロールが難しい中、適切に利用できない生徒に集中力に関係していると考えられます。またそのことが家庭学習や家庭での読書量にも関係していると考えられます。スマートフォンの適切な利用を指導することが、大きな課題だと思います。また、学習をする意欲より、動画を見たい欲求の方が大きくなっているため、学習意欲を高めるような指導が必要だと思います。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

生徒の成長を見取り伝えることにより、道徳的実践力の育成につなげる。

具体的な取組

- ①教科書の読み物教材を活用して、授業力の向上を目指すとともに、昨年度実施した教科指導と道徳の時間の関連を深めた授業も活用し、学校全体として道徳教育が活性化するよう年間指導計画を立てる。
- ②年2回の振り返りシートから生徒の成長の様子を見取ることで生徒への理解を深め、それにより学校生活において生徒一人一人が道徳的実践力を育成できるよう教員がサポートする機会をつくる。
- ③道徳推進教師等が中学校ブロック3小学校と定期的に情報交流するとともに、小中合同夏季合同研修会で各校の取組状況を中間報告し、中学校ブロックの「育てたい児童・生徒像」をもとに、各校が共通の重点内容項目を設定できるよう引き続き検証を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校行事や生徒会活動、道徳の授業で見られる生徒の成長や取り組む姿勢の変容。
- ・研修会、研究授業での意見。
- ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果。
該当項目・・・①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)
②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかり聞けるようになってきた。」(生徒)
③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)

中間評価

各種指標結果

- ・様々な学校行事において、他者を受け入れる姿勢に変容があった。
- ・全国学習状況調査等のアンケートより、「自分の考えを深めたり、広げたりできている」ことや「話し合いを生かして、努力すべきことに取り組んでいる」ことを感じている生徒が多く、前向きな様子が見られる。
- ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果
①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.3ポイントで、H30年度後期より0.1ポイント高い。
②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかり聞けるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.9ポイントでH30年度後期より0.2ポイント高い。
③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)の適合度は、5.1ポイントでH30年度後期より同じである。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・読み物教材に対する意識において、指導者側は難しさを感じ授業での達成感に乏しさがあるが、生徒側は苦手意識がなく、自由な発言・発想ができている。
- ・様々な授業で生徒同士が関わり合いをもちながら学習する形態が増えたことで、学校行事においても、他者の行動や発言を受け入れやすい環境ができた。しかし、その環境が生徒の中で行き過ぎた行動や発言につながるケースがある。例えば、盛り上がり過ぎると、ただ騒がしい状態になってしまう。

分析を踏まえた取組の改善

- ・研修会等を通して、指導者側の授業に対する苦手意識を軽減する。
- ・集団の場でのマナーに対する指導の共通理解を図り、学級活動時には、生徒への声かけを心がける。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動，道徳の授業で見られる生徒の成長や取り組む姿勢の変容。 ・研修会，研究授業での意見。 ・生徒，保護者および教員によるアンケートの結果。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者としては，家で指導すべきことまで学校でもらっている。 ・道徳の時間に幅広く学習されていることはよいと思う。学級の日々の課題と結び付けて学習を広げて行って欲しい。 ・中学校の道徳の内容を知らせて欲しい。 ・道を歩いている中学生は，おとなしいが少し元気がないと思う。 ・何かを伝えられるようになったことはよいが，話をしっかり聞けないのはよくない。中学生が大人になっていくことを考えると，相手の違いを認めながら，話を聴けるようになることはとても大切である。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒，保護者および教員によるアンケートの結果 <ol style="list-style-type: none"> ①「クラスや学年など，学校内の様々な集団で，自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)の適合度は，5.3ポイントで，前期のポイントと同じである。 ②「クラスや学年など，学校内の様々な集団で，周囲の意見をしっかり聞けるようになってきた。」(生徒)の適合度は，5.8ポイントで前期より0.1ポイント低い。 ③「学級や学年，学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)の適合度は，5.0ポイントで前期より0.1ポイント低い。 ・生徒の成長や取り組む姿勢の変容は，年度末で行った振り返りシートから見取ることができたが，その見取りを有益に活用できなかった。(保護者と直接共有する機会がなかった。) ・研究授業での協議を通して，生徒理解を深めることで，道徳授業に関する教材研究や年間計画を見直すことができた。
自己評価	<p>分析(成果と課題)，重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業に関する教材研究，ねらいの設定，発問内容を議論することができた。その議論を活かして，授業に取り組むこともできた。 ・振り返りシートを活用して生徒の成長を見取ることができたが，保護者との共有を直接行えなかったことで，生徒自身が成長を感じる機会が少なかった。 ・評価の提示時期や方法を来年度検討したい。 ・これまでに実施してきた教材を活用できるよう，資料の作成を検討したい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに教材研究(教科書および独自教材を含む)，授業実践からわかる成果・課題を，来年度に活かせるよう，資料を作成する。 ・生徒の成長の見取りを保護者と直接共有するために，前期の振り返りを10月頃に実施し，

	全学年が12月の三者懇談会で評価を渡す機会を持つ。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いところだけ指摘するような指導ではなく、いいところを評価していく指導を続けて、自己有用感・自尊感情など意識的に育てて欲しいと願っている。 ・最近の生徒は自分の主張はするが、周りが見えなかったり、相手の気持ちを理解することが難しくなってきたりしていると感じている。重点課題の「折り合いをつける力」を、ぜひ今後も育てて欲しいと思います。 ・この2年間、道徳の時間の指導の向上に力を入れてきたことがよく分かった。これからもその取り組みをぜひ継続して欲しい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	心身の健康に関心を持ち、生涯にわたって健康を保持・増進する自己管理能力を育てる。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業の中で、ペア学習・グループ学習を通じて対話的で深い学びを重視した授業づくりを行う。 ・新体力テストから自分の現状を知り、家庭での取組に生かす。 ・健康診断、健康観察、保健室情報等を根拠とした健康教育を推進する。 ・キャリア教育、道徳、人権教育、ライフスキル教育、安全教育、情報教育等と関連付けた健康教育の推進で、自他を大切にす態度を育成する。 ・保健の授業での社会性の向上で、公共の精神に基づく態度を育成する。 ・基本的な生活習慣を定着させるため、生徒会保健委員会より啓発活動を行う。 ・学校保健委員会を実施する。 ・校内教職員研修会を実施する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話す、聞く態度の変容。 ・1年ごとの新体力テストの結果。 ・あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況。 ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度。 ・保護者の学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」(保護者)</p>

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話す、聞く態度の変容は、技能について話し合う姿が多くなったことから見て取れる。 ・1年ごとの新体力テストの結果は、3年間記入できるカードで確認している。
---------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始終了時間は、しっかり守れている。 ・該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」（保護者）の適合度は、5.2ポイントで、H30年度後期より0.1ポイント高い。
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業の中では、対話的で深い学びを重視した授業づくりが計画通りにできている。 ・新体力テストの結果から自分の現状を知り、ふり返りの中で、自分の体力を把握した。 ・健康診断、健康観察を計画通りに実施し、個別の保健指導に繋げることができた。 ・「NKGレベルアップ週間」で、生徒会保健委員会より「朝食チェック」を行い、規則正しい食生活定着のための啓発活動ができた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や健康課題を把握し、健康教育を進めていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話す、聞く態度の変容。 ・1年ごとの新体力テストの結果。 ・あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況。 ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度。 ・保護者の学校評価アンケートの結果。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生は成長期であり、いろいろなことの過渡期でもあるので、心の健康については大切に指導して行って欲しい。 ・女子の Slack が、検討の上導入されたことを、大いに評価している。これからは LGBT の理解など、一人ひとりの人権を大切にする取組を期待する。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話す、聞く態度の変容は、技能だけでなく戦術についても話し合う姿が多くなったことから見て取れる。 ・1年ごとの新体力テストの結果の報告があったので、他の教員にも回覧した。 ・あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況や挨拶はまだ不十分な部分が残るが、時間、掃除はきちんとできている。 ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度はインフルエンザや風邪の流行する時期に入り、少し意識しているように感じる。 ・該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」（保護者）の適合度は、5.0ポイントで、前期より0.2ポイント低い。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室前の掲示板を整備したことによって、保健指導資料を掲示する等、健康教育に掲示物の活用ができた。 ・簡単なけがの処置はでらでできるが、心身の健康に無関心な生徒が多くいることを個別の保健指導を通して確認できた。次年度も『健やかな体』の育成に向けて「引き続き個別の保健指導を行う。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や健康課題を把握するだけでなく、学校保健委員会で協議した心身の健康問題も踏まえて健康教育を進める。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康面でもスマートフォンの利用が大きいかかわっていて、睡眠不足や体調不良に影響を及ぼしているように思います。 ・インフルエンザによる学級閉鎖がなかったことは、いいことだと思います。 ・心のタフがあまりないように思えるので、タフになるような指導もして行ってほしい。

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>①小中一貫教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童・生徒が自分の成長に自信を持ち、他者の成長を認め、仲間とともに学び、競い合い、成長し合うことで、生涯にわたって学び続ける意欲を培う。 ・地域や社会の一員として貢献しようとする姿勢を育てる。 <p>②秩序ある学校生活を送る中で、次のような子ども像を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にする児童・生徒。 ・楽しく学び、じっくり考え、しっかり行動できる児童・生徒。 ・困難に対し、粘り強く立ち向かおうとする児童・生徒。 ・社会に目を向け、人の役に立とうとする児童・生徒。 ・<u>地域の方との交流の中で「公共の精神」に基づく態度を育成する。</u>
<p>具体的な取組</p> <p>①月1回の小中合同定例会（校長会・教頭会・教務主任会・研究主任会）を持ち、それぞれの立場から9年間を見通した取組についての検討を進める。</p> <p>②夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。</p> <p>③「中一ギャップ」の解消に向け、体験授業や生徒会本部役員による中学校説明会を行う。</p> <p>④小学校児童会と中学校生徒会の協働の取組を進める。</p> <p>⑤小中学校相互の授業を参観し、道徳では共通の振り返りを実施する。</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつ。

- ・地域の行事への参加数。
- ・地域の人と関わるようになってきたか。
- ・保護者の学校評価アンケートの結果。
該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とのかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）

中間評価

各種指標結果

- ・日頃のあいさつについては成果を上げているが、地域行事への関わりについてはあまり改善はみられていない。
- ・該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とのかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）は、適合度は 5.1 ポイントで H30 年度後期より 0.1 低いですが、H29 年度の前期・後期より高いポイントで維持している。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・小中合同研修会で、さらに踏み込んだ成果を授業や取組に生かしていくことを確認した。生徒会が中心となり、小学校や地域にも協力を仰いで、ボランティア活動を始めた。生徒会本部役員が直接お願いに行き、協力を求めるような活動を行った。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ボランティアの結果を小学校や地域に返していくような取組を進めていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・日頃のあいさつ。
- ・地域の行事への参加数。
- ・地域の人と関わるようになってきたか。
- ・保護者の学校評価アンケートの結果。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域のスポーツ行事に中学生も参加してくれている。10代後半、20代も多数参加し、喜んでいる。今後もこのつながりを大切にしたい。
- ・地域では、あいさつすると返ってくるが、だまっているとあいさつしない中学生が多い。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・日頃のあいさつについては、少しずつ成果を上げているが、地域行事への関りについては、あまり改善はみられていない。
- ・該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とのかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）は、適合度は 5.1 ポイントで前期のポイントと同じである。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会に貢献できる生徒を目指して、今年度は生徒会を中心にボランティア活動を行った。その中で、地域の小学校や児童館、店舗等とも生徒が直接かかわり、活動する機会を得ることができた。しかし反面、小中一貫教育ではボランティア交流以外の新しい取組や成果はあまり進まなかった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は地域や社会とのかかわりを目指してのボランティア活動も続け、新たに小中一貫の活動を増やしていきたい。多くのかかわりの中で、生徒たちの『折り合いをつける力』の育成を目指して、小学校、地域、社会との連携を進めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区では、交通ルールが守れない中学生が多いように思います。地域の問題でもあるが、地域の子どもみんなで育てていくという観点で、小学校と連携して中学校でも安全教育を積極的に進めて欲しい。 ・中学校の生徒会が中心となって実施した地域とのボランティア活動「服のチカラ・プロジェクト」は大変良いと思います。来年度も継続して欲しい。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員の資質・指導力の向上 働き方改革を踏まえた組織づくりや時間管理の工夫</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の研修会とは別に、OJT研修会（若手・中堅道場）を定期的（月に1回）に開催することにより、教職員の資質・能力の向上を図る。 ・職員会議や研修会で、校長・教頭より必要な短時間の研修を行う。 ・カリキュラム・マネジメントの視点で、学校行事の精選をする。 ・職員室などで、整理・整頓・ロッカーにラベルを貼るなど、効率的な業務をすすめる。 ・出退勤システムの入力を習慣化し、時間外勤務時間数を意識する機会を定期的につくる。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の時間数 ・教員の学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）</p>

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の時間数：全教職員の月別平均（時間，分）は，4月 66 時間 25 分，5月 58 時間 50 分，6月 61 時間 17 分，7月 54 時間 11 分，8月 26 時間 45 分，9月 54 時間 27 分である。また，1ヶ月に 80 時間超の人数は，4月 18 人，5月 8 人，6月 9 人，7月 7 人，8月 0 人，9月 6 人である。 ・教員の学校評価アンケートの結果。該当項目：①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）は，「そう思う」が 27.5%，「大体そう思う」は 50.0%，「あまりそう思わない」17.5%，「そう思わない」が 5.0%である。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の時間外勤務の時間数や 80 時間超の人数の比較は，そのつけ方が違うので判断が難しい。来年度以降に判断ができる。年度当初は超過勤務が多く，次第に減少傾向にある。長期休業中は超過勤務が少なくなる。9月は学校祭（文化祭・体育祭）があり，超過勤務がまた増加した。 ・他の学校評価アンケートの指数と比べると，高くなく，その成果はあまり見られない。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・O J T 研修会（若手・中堅道場）を何回か開催できたが，後期は定期的に（できれば月 1 回）開催して，教職員の資質・能力のさらなる向上を図る。 ・職員会議や研修会で，校長・教頭より短時間の研修を継続する。 ・来年度の学校行事の原案づくりの中で，カリキュラム・マネジメントの視点を持ち，学校行事の精選を図る。 ・職員室などで，校務支援員と協力して，整理・整頓・ロッカーにラベルを貼るなど，効率的な業務をすすめられるよう環境づくりを行う。 ・出退勤システムの入力が習慣化してきている。さらなる定着を図る。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の時間数，80 時間超の人数 ・後期教員の学校評価アンケート（12 月実施）の結果。 該当項目・・・①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を決めて留守番電話をセットすることに賛成する。 ・学校の働き方改革に対して，地域として応援する。 ・働き方改革が前進していくことを期待する。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の時間数：全教職員の月別平均（時間，分）は，10月 54 時間 42 分，11月 46 時間 16
--

分、12月44時間27分、1月38時間45分、2月40時間49分である。また、1ヶ月に80時間超の人数は、10月7人、11月1人、12月1人、1月0人、2月2人である。

- ・教員の学校評価アンケートの結果。該当項目：①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）は、適合度が前期5.0から後期5.2ポイントと0.2ポイント高い。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・時間外勤務の平均の時間数は、前期の10月より毎月少しずつ少なくなっている。また、80時間超の人数も11月からは1人、1月には0人になった。学校行事の量や下校時間が早くなったことが大きな要素としてあげられるが、働き方改革の成果とも思われる。
- ・学校評価アンケートの結果より、前期より後期が0.2ポイント高くなったことは、今年度の成果と思われる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・勤務時間を枠として捉え、最低限必要な補導事象の取組を除いて、できるだけ最大でも7時30分から19時の中で教育活動を行うことが、少しずつだが意識できはじめていると思われる。
- ・カリキュラム・マネジメントにより、来年度の学校行事の精選を行った。具体的には生き方探究・チャレンジ体験を9月から11月に移すことや2、3年生の秋の校外学習をなくすことでさらなる推進を図ることになった。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・新しい取り組みもある中、働き方改革を推進することは難しいことと思いますが、この社会の流れの中で、やはり重要なこととなってきていると思います。
- ・学校が早く閉まることに対しては、地域は少しずつ理解しはじめています。